

# 平成29年度 経済産業省・健康経営の取組み「働く女性の健康推進」に関する実態調査

## ○本調査の目的

■男女雇用機会均等法が施行されて32年を数え、一昨年からは「女性活躍推進法」が施行されるなど、女性の社会進出が進んでいます。現在、少子高齢化や労働人口の減少が進行する中、全雇用者の40%以上が女性で占められ、産業の活性化や国の発展につながる大きな労働力となっています。政府は、2020年までに様々な分野の管理職の少なくとも30%を女性が占めることを国家的目標として掲げています。

■他方、女性や男性にはそれぞれ異なる健康課題があり、心や身体の変化を抱えながら仕事のパフォーマンスを最大限引き出すには、働く職場においても様々な工夫が必要です。企業が適切なサポートや投資を行い、従業員や管理者が互いの身体の変化を認識し理解し合うことが、個人のQOLを向上させるだけではなく、ひいては企業の生産性向上や業績向上にもつながることであり、今後社会全体として推進していく必要がある課題です。

■本調査は、女性にとって健康で働きやすい環境を整備するため、健康課題への認識や働く女性が勤務先で置かれている現状、意識・要望などを把握し、職場での健康課題の認知・理解を普及させるための基礎データを得ることを目的としています。

## 【1】あなたご自身についてお伺いします。

Q1 性別 ※共通 (○は1つ)

1. 女性 2. 男性

Q2 年齢 ※共通 (○は1つ)

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. それ以外

Q3 就業形態 ※共通 (○は1つ)

1. 正社員 2. 契約社員・嘱託社員 3. パート・アルバイト 4. 派遣社員 5. その他( )

Q4 役職 ※共通 (○は1つ)

1. 一般社員 2. 主任・係長クラス 3. 課長クラス 4. 部長クラス 5. 経営者・役員 6. 該当なし

Q5 職種 ※共通 (○は1つ)

1. 営業系(外勤が伴うもの)  
 2. 事務系:一般事務、人事、総務、経理、財務、会計、秘書、受付など  
 3. 企画系:マーケティング・商品企画、宣伝、広報など  
 4. 専門職系:各種エンジニア、医療関連専門職など  
 5. 金融関連専門職、法務・知的財産専門職、コンサルタント、研究職、医師、弁護士など  
 6. クリエイティブ系:クリエイター、デザイナー、コピーライター、イラストレーターなど  
 7. その他/経営  
 8. その他/教師、講師  
 9. その他/SE  
 10. その他/接客、販売、サービス  
 11. その他( )

Q6 あなたの勤務先の業種 ※共通 (○は1つ)

1. 農業、林業、漁業 11. 学術研究、専門・技術サービス業  
 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 12. 宿泊業、飲食サービス業  
 3. 建設業 13. 生活関連サービス業、娯楽業  
 4. 製造業 14. 教育、学習支援業  
 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 15. 医療  
 6. 情報通信業 16. 福祉  
 7. 運輸業、郵便業 17. 複合サービス事業  
 8. 卸売業、小売業 18. サービス業  
 9. 金融業、保険業 19. 公務  
 10. 不動産業、物品賃貸業 20. その他( )



## 【2】女性特有の健康課題による社会的影響について

Q11 次のような女性の健康に関する社会的な問題があることをご存知でしたか。

※共通（各項目〇は1つ）

	知っていた	聞いたことがある程度	知らなかった・わからなかった
1. 女性は毎月の月経周期に加え、妊娠・出産期、更年期、老年期と生涯を通じホルモンバランスが大きく変動し、女性ホルモンの影響により、月経不順や月経痛、PMS（月経前症候群）（※1）などの婦人科疾患のみならず、生活習慣病・がん・メンタルヘルス・骨粗しょう症などの発症の仕方や頻度にも男性と比較して性差が認められる。	1	2	3
2. 月経随伴症状などによる社会経済的負担は、通院費用930億円、OTC医薬品費用987億円、労働損失4911億円と年間6828億円にのぼり、労働損失（会社を休む、労働量・質の低下）が72%を占めている。	1	2	3
3. 「疾患・症状が仕事の生産性等に与える影響に関する調査」では、1位 メンタル不調、2位 心臓の不調、3位 月経不順・PMS（月経前症候群）（※1）等による不調となっており、男女調査であるにも関わらず、月経やPMS（月経前症候群）（※1）という女性のみ症状が3位に入っている。	1	2	3
4. 仕事をしながら不妊治療をした人のうち、仕事との両立が困難で働き方を変えなくてはならなかったと答えた人が、全体の40.8%、そのうち退職した人の割合は50.1%だった。不妊治療においては、検査や治療で頻繁に通院したり、急に診察日が決まる等、仕事との両立が難しくなる事情が存在する。	1	2	3
5. 特定検診では、心筋梗塞や脳梗塞などのリスクが高まるメタボリックシンドロームへの対策があるが就労期の女性にはメタボリックシンドロームに該当する割合は少なく、20代には殆ど存在しない。30代の女性のメタボ率は0.5%で男性の17分の1、40代は3.5%で4分の1以下、50代は6.7%で3分の1以下、60代でも16.3%で2分の1以下などである。	1	2	3
6. やせの者（BMI<18.5以下）の割合は男性で4.4%、女性で11.6%であり、この10年間でみると女性では有意に増加している。20歳代の女性のやせの者の割合は20.7%である。（20歳代の女性は朝食欠食率は23.1%、30代の女性は19.5%であるなど、エネルギー・栄養素不足になっている。）女性の痩せすぎ、貧血は心身の不調、妊娠出産への悪影響、骨粗しょう症とも関連する。	1	2	3
7. 更年期症状は、全ての項目で更年期症状がない人に比べ、指標が低下している（指標：身体機能、日常役割機能 身体及び精神、体の痛み、全体的健康感、活力、社会生活機能、心の健康）ことが、QOLの調査で判明している。	1	2	3
8. 悪性新生物（がん）の治療のため、仕事をもちながら通院している者は32.5万人おり、そのうち、女性は18.1万人である。40歳未満2万人、40代5万人、50代7万人と男性に比べ、若い。乳がん、子宮頸がんが多く、最近両者とも増加傾向が認められる。	1	2	3
9. 現代は出産の高齢化や回数減少により、女性が生涯で経験する月経数が増えている。子宮内膜症や子宮筋腫、卵巣のう腫なども増加しており、月経痛や月経困難症、PMS（月経前症候群）（※1）など女性の就労に大きな影響を与えている。	1	2	3

※1 「PMSとは（Premenstrual Syndrome）の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

**【3】 政府が進める健康経営や女性の活躍の取組みについてお伺いします。**

Q12 あなたは政府が推進する健康経営や女性の活躍に関する下記の取組みについて、ご存知ですか。

※共通

(〇はいくつでも)

1. 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業を表彰する制度「健康経営銘柄」「健康経営優良法人」(経済産業省など)
2. 女性活躍推進に優れた上場企業を選定する「なでしこ銘柄」(経済産業省)
3. 女性活躍推進法に基づき、女性活躍推進事業主を認定する「えるぼし」認定マーク制度(厚生労働省)
4. 次世代育成支援対策推進法に基づき、子育てサポート企業を認定する「くるみん」認定マーク制度(厚生労働省)
5. 該当するものはない

Q13 勤務先では、下記の認定制度を取得するような動き(既に取得している場合も含む)は見られますか(〇はいくつでも)

※管理者

1. 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業を表彰する制度「健康経営銘柄」「健康経営優良法人」(経済産業省など)
2. 女性活躍推進に優れた上場企業を選定する「なでしこ銘柄」(経済産業省)
3. 女性活躍推進法に基づき、女性活躍推進事業主を認定する「えるぼし」認定マーク制度(厚生労働省)
4. 次世代育成支援対策推進法に基づき、子育てサポート企業を認定する「くるみん」認定マーク制度(厚生労働省)
5. 特にそういう動きはない

#### 【4】勤務先のサポートについてお伺いします。

##### 企業の健康サポート策の事例 – 現在、様々な企業で働く女性の健康をサポートする動きが生まれています。

●「女性の健康に関する相談窓口」を開設し、女性社員が産業医にメールで気軽に相談できるシステムを構築。月経関連や更年期障害の症状についての相談など、健康診断やストレスチェックなどでは発見することの出来ない、女性特有の「不調」にも向き合うことで女性社員が働きやすい環境を整えている。(日用品・化粧品メーカーA社)

●入社5年目の社員とその上司を対象に、女性のライフステージに訪れる心と体の変化と健康管理について教える研修を実施。女性ホルモンの変動により様々な変動があらわれるメカニズムを、女性本人だけでなく職場の男性や管理職も一緒に理解を深めることで、職場全体のヘルスリテラシー向上を実現。(情報サービスB社)

●女性社員が多数を占める職場において、社員が仕事と家庭の両立を図り、安心して長く働き続けられる環境づくりの一環として、不妊治療に取り組む社員の支援を実施。高度な不妊治療(体外受精・顕微授精)を受診の際は、一定期間休職をすることが出来る。(航空C社)

勤務先では、「働く女性」に対して、どのようなサポート・配慮が行なわれていますか。

Q14 (次の質問で活用状況をお聞きしますので、ここでは制度の有無のみをお答え下さい) ※共通 (〇はいくつでも)

##### <キャリア支援関連>

1. 女性の活躍推進・登用サポートなどに取り組む部署やプロジェクト
2. 年次や年齢に関係なく、職務能力向上を図ることができる海外留学・キャリア開発研修など
3. やりたい仕事の自己申告制度、社内公募制度
4. 管理職への女性の積極登用
5. モデルとなる女性従業員の提示・周知
6. 性別や年齢などを問わないキャリアパスの多様化
7. スポンサーシップ制度(※2)
8. 女性社員に対するメンター制度(※3)
9. 育児休業取得者に対するキャリアサポートや育児休業後早期フルタイム帰任教育、サポート
10. 非正規雇用者の正社員化
11. セクシャルハラスメントやマタニティハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメント防止

##### <健康支援関連>

12. 生理休暇
13. 妊婦検診など母性健康管理のためのサポート
14. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状に関する社員向けセミナー・啓発など
15. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状などに対する健康相談窓口の設置(産業医やカウンセラーなどの医療職スタッフ)
16. 子宮頸がん、子宮体がん、乳がんなどの検診受診の促進
17. 不妊治療・通院のための休暇(時間有給、短時間勤務など)・休職制度
18. 不妊治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)
19. 不妊治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)
20. がん治療・通院のための休暇・休職制度
21. がん治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)
22. がん復帰後のサポート(業務上の配慮や精神上的サポートなど)
23. 女性のがん治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)
24. 婦人科医など専門医と連携したアドバイスや医療機関紹介等のサポート
25. 検診や受診のための有給休暇制度

##### <ワーク・ライフ・バランス支援関連>

26. ワーク・ライフ・バランスやライフプランニングに関する研修
27. 時短勤務やフレックス、時間有休など時間的勤務形態の多様化
28. テレワークや在宅勤務など場所的勤務形態の多様化
29. 休暇を取得しやすくするための仕組み(休暇を取得した際の業務分担や人員配置、管理職からの利用推奨など)
30. 出産・育児休業や短時間勤務など仕事と両立を図るための支援
31. 家族の病気や介護による休暇、仕事との両立を図るための支援
32. 配偶者同行制度(配偶者が転勤になった場合に、その随伴のための転勤を認める制度)
33. その他( )
34. 該当するものはない

※2 スポンサーシップ制度…女性の管理職や経営幹部を増やすために、役員クラスが選ばれた女性社員のスポンサーに就き、マンツーマンで指導して昇進を後押しする制度のことである。

※3 メンター制度…豊富な知識と職業経験を有した社内の先輩社員(メンター)が、後輩社員(メンティ)に対する個別支援活動である。キャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を果たす。

Q  
15- そのサポート・配慮は、実際に社内での位活用されていますか。

※共通 (各項目○は1つ)

①

※Q14に回答があったものだけを表示する	非常に活用されている	まあ活用されている	どちらともいえない	あまり活用されていない	ほとんど活用されていない
<b>&lt;キャリア支援関連&gt;</b>					
1. 女性の活躍推進・登用サポートなどに取組む部署やプロジェクト	1	2	3	4	5
2. 年次や年齢に関係なく、職務能力向上を図ることができる海外留学・キャリア開発研修など	1	2	3	4	5
3. やりたい仕事の自己申告制度、社内公募制度	1	2	3	4	5
4. 管理職への女性の積極登用	1	2	3	4	5
5. モデルとなる女性従業員の提示・周知	1	2	3	4	5
6. 性別や年齢などを問わないキャリアパスの多様化	1	2	3	4	5
7. スポンサーシップ制度(※2)	1	2	3	4	5
8. 女性社員に対するメンター制度(※3)	1	2	3	4	5
9. 育児休業取得者に対するキャリアサポートや育児休暇後早期フルタイム帰任教育、サポート	1	2	3	4	5
10. 非正規雇用者の正社員化	1	2	3	4	5
11. セクシャルハラスメントやマタニティハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメント防止	1	2	3	4	5
<b>&lt;健康支援関連&gt;</b>					
12. 生理休暇	1	2	3	4	5
13. 妊婦検診など母性健康管理のためのサポート	1	2	3	4	5
14. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状に関する社員向けセミナー・啓発など	1	2	3	4	5
15. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状などに対する健康相談窓口の設置(産業医やカウンセラーなどの医療職スタッフ)	1	2	3	4	5
16. 子宮頸がん、子宮体がん、乳がんなどの検診受診の促進	1	2	3	4	5
17. 不妊治療・通院のための休暇(時間有給、短時間勤務など)・休職制度	1	2	3	4	5
18. 不妊治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)	1	2	3	4	5
19. 不妊治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)	1	2	3	4	5
20. がん治療・通院のための休暇・休職制度	1	2	3	4	5
21. がん治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)	1	2	3	4	5
22. がん復帰後のサポート(業務上の配慮や精神上的サポートなど)	1	2	3	4	5
23. 女性のがん治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)	1	2	3	4	5
24. 婦人科医など専門医と連携しアドバイスや医療機関紹介等のサポート	1	2	3	4	5
25. 検診や受診のための有給休暇制度	1	2	3	4	5
<b>&lt;ワーク・ライフ・バランス支援関連&gt;</b>					
26. ワーク・ライフ・バランスやライフプランニングに関する研修	1	2	3	4	5
27. 時短勤務やフレックス、時間有休など時間的勤務形態の多様化	1	2	3	4	5
28. テレワークや在宅勤務など場所的勤務形態の多様化	1	2	3	4	5
29. 休暇を取得しやすくするための仕組み(休暇を取得した際の業務分担や人員配置、管理職からの利用推奨など)	1	2	3	4	5
30. 出産・育児休暇や短時間勤務など仕事と両立を図るための支援	1	2	3	4	5
31. 家族の病気や介護による休暇、仕事との両立を図るための支援	1	2	3	4	5
32. 配偶者同行制度(配偶者が転勤になった場合に、その随伴のための転勤を認める制度)	1	2	3	4	5
33. その他( )	1	2	3	4	5

※2 スポンサーシップ制度…女性の管理職や経営幹部を増やすために、役員クラスが選ばれた女性社員のスポンサーに就き、マンツーマンで指導して昇進を後押しする制度のことである。

※3 メンター制度…豊富な知識と職業経験を有した社内の先輩社員(メンター)が、後輩社員(メンティ)に対する個別支援活動である。キャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を果たす。

Q  
15- そのサポート・配慮が活用されない主な理由と思われるものをお選びください。  
②

※共通 (○はいくつでも)

※Q15-①で「あまり活用されていない」「ほとんど活用されていない」に回答があったものだけを表示する	制度やサポートが知られていない		制度的に活用しづらい		上司や周囲の理解が浸透しづらい		仕事の特性上、活用しづらい		前例がない		わからない		その他	
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
<キャリア支援関連>														
1. 女性の活躍推進・登用サポートなどに取組む部署やプロジェクト	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
2. 年次や年齢に関係なく、職務能力向上を図ることができる海外留学・キャリア開発研修など	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
3. やりたい仕事の自己申告制度、社内公募制度	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
4. 管理職への女性の積極登用	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
5. モデルとなる女性従業員の提示・周知	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
6. 性別や年齢などを問わないキャリアパスの多様化	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
7. スポンサーシップ制度(※2)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8. 女性社員に対するメンター制度(※3)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
9. 育児休業取得者に対するキャリアサポートや育児休暇後早期フルタイム帰任教育、サポート	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
10. 非正規雇用者の正社員化	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
11. セクシャルハラスメントやマタニティハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメント防止	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
<健康支援関連>														
12. 生理休暇	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
13. 妊婦検診など母性健康管理のためのサポート	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
14. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状に関する社員向けセミナー・啓発など	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
15. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状などに対する健康相談窓口の設置(産業医やカウンセラーなどの医療職スタッフ)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
16. 子宮頸がん、子宮体がん、乳がんなどの検診受診の促進	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
17. 不妊治療・通院のための休暇(時間有給、短時間勤務など)・休職制度	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
18. 不妊治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
19. 不妊治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
20. がん治療・通院のための休暇・休職制度	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
21. がん治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
22. がん復帰後のサポート(業務上の配慮や精神上的サポートなど)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
23. 女性のがん治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
24. 婦人科医など専門医と連携しアドバイスや医療機関紹介等のサポート	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
25. 検診や受診のための有給休暇制度	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
<ワーク・ライフ・バランス支援関連>														
26. ワーク・ライフ・バランスやライフプランニングに関する研修	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
27. 時短勤務やフレックス、時間有休など時間的勤務形態の多様化	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
28. テレワークや在宅勤務など場所的勤務形態の多様化	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
29. 休暇を取得しやすくするための仕組み(休暇を取得した際の業務分担や人員配置、管理職からの利用推奨など)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
30. 出産・育児休暇や短時間勤務など仕事と両立を図るための支援	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
31. 家族の病気や介護による休暇、仕事との両立を図るための支援	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
32. 配偶者同行制度(配偶者が転勤になった場合に、その随伴のための転勤を認める制度)	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
33. その他( )	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

※2 スポンサーシップ制度…女性の管理職や経営幹部を増やすために、役員クラスが選ばれた女性社員のスポンサーに就き、マンツーマンで指導して昇進を後押しする制度のことである。

※3 メンター制度…豊富な知識と職業経験を有した社内の先輩社員(メンター)が、後輩社員(メンティ)に対する個別支援活動である。キャリア形成上の課題解決を援助して個人の成長を支えるとともに、職場内での悩みや問題解決をサポートする役割を果たす。

Q  
15- Q15-②の「その他」とお答えになったものについて、内容は何でしょうか。具体的にお知らせください。 ←

③  
※共通

(自由回答)

**【5】 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状についてお伺いします。**

Q16 あなたがご存知の女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状をお答えください。

(〇はいくつでも)

※共通

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など) 2. PMS(月経前症候群)(※1) 3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん) 4. 子宮内膜症や女性の良性腫瘍(卵巣のう腫、子宮筋腫など) 5. 甲状腺疾患(バセドウ病・橋本病など)や膠原病などの自己免疫疾患 6. 妊娠・出産に関する症状・疾病(つわり・流産・早産・死産・産後うつなど) 7. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある) 8. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など) 9. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど) 10. 閉経後の女性ホルモン低下による症状・疾病(骨粗しょう症・関節痛・動脈硬化や糖尿病、メタボ、認知症の増加など) 11. 骨盤底の症状・疾病(頻尿・尿漏れ・骨盤臓器脱など) 12. 冷えやのぼせなどの血流障害 13. 便秘や下痢などの胃腸障害 14. 頭痛・片頭痛 15. やせ・肥満・むくみ・ダイエットや栄養障害 16. 貧血 17. その他( ) 18. 該当するものはない
--

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

あなたご自身の立場で考えた場合、勤務先全体で女性従業員に対し、業務上配慮が必要な女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状にはどんなものがありますか。また、その症状が著しい場合、仕事にどのような影響が生まれると考えますか。

(各項目〇は1つ)

従業員(女性)	会社を休んで医師にかかる必要がある	会社を休んで休養を取る必要がある	会社を休む程ではないが、仕事の能率が落ちるなどの影響が生まれる	特に問題はない	わからない
1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)	1	2	3	4	5
2. PMS(月経前症候群)(※1)	1	2	3	4	5
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)	1	2	3	4	5
4. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)	1	2	3	4	5
5. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)	1	2	3	4	5
6. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)	1	2	3	4	5
7. その他( )	1	2	3	4	5

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q18 職場が、女性従業員に対し、業務上配慮が必要な女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状にはどんなものがあると思いますか。また、その症状が著しい場合、仕事にどのような影響が生まれると考えますか。

(各項目○は1つ)

従業員(男性)、管理者	会社を休んで医師にかかる必要がある	会社を休んで休養を取る必要がある	会社を休む程ではないが、仕事の能率が落ちるなどの影響が生まれる	特に問題はない	わからない
1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)	1	2	3	4	5
2. PMS(月経前症候群)(※1)	1	2	3	4	5
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)	1	2	3	4	5
4. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)	1	2	3	4	5
5. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)	1	2	3	4	5
6. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)	1	2	3	4	5
7. その他( )	1	2	3	4	5

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q  
19- あなたは、下記の女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状により、勤務先で困った経験をしたことはありますか  
①-1

※従業員(女性)

(〇はいくつでも)

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)
2. PMS(月経前症候群)(※1)
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)
4. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)
5. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)
6. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)
7. その他(
8. 該当するものはない

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q  
19- 前問の女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状により困った経験を具体的にお知らせください。  
①-2

※従業員(女性)

(自由回答)

Q  
19- その際に、必要と感じたサポートにはどんなものがありますか。  
①-3

※従業員(女性)

(自由回答)

Q  
19- 職場の人で下記の女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状が原因と思われる、困った事例や周囲とのトラブルなどを見聞きしたことはありますか。  
②-1

※従業員(男性・女性)

(〇はいくつでも)

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)
2. PMS(月経前症候群)(※1)
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)
4. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)
5. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)
6. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)
7. その他(
8. 該当するものはない

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q  
19- 前問の困った事例や周囲とのトラブルなど、見聞きしたことを具体的にお知らせ下さい。  
②-2

※従業員(男性・女性)

(自由回答)

Q  
19- あなた自身が管理者として対処に困った経験のある、女性従業員の健康課題や症状を下記の中からお知らせ  
③-1 下さい。

※管理者

(〇はいくつでも)

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)
2. PMS(月経前症候群)(※1)
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)
4. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)
5. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)
6. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)
7. その他(
8. 該当するものはない

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q  
19- 前問の対処に困った経験のある、女性従業員の健康課題や症状による職場での内容を具体的にお知らせ下さい。  
③-2

※管理者

(自由回答)

Q20 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状(メンタル面の不調を含む)、妊娠や出産・  
- 妊活などにより、職場で諦めなくてはならないと感じたことはありますか。 (〇はいくつでも)  
SQ1

※従業員(女性)

1. 正社員として働くこと
2. 希望の職種を続けること
3. 研修や留学、赴任などのキャリアアップにつなげること
4. 昇進や責任の重い仕事につくこと
5. 管理職となること
6. そういう経験はない

Q20 具体的には、どのような健康課題や症状でしたか。  
- SQ2

※従業員(女性)

(〇はいくつでも)

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)
2. PMS(月経前症候群)(※1)
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)
4. 子宮内膜症や女性の良性腫瘍(卵巣のう腫、子宮筋腫など)
5. 甲状腺疾患(バセドウ病・橋本病など)や膠原病などの自己免疫疾患
6. 妊娠・出産に関する症状・疾病(つわり・流産・早産・死産・産後うつなど)
7. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)
8. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)
9. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)
10. 閉経後の女性ホルモン低下による症状・疾病(骨粗しょう症・関節痛・動脈硬化や糖尿病、メタボ、認知症の増加など)
11. 骨盤底の症状・疾病(頻尿・尿漏れ・骨盤臓器脱など)
12. 冷えやのぼせなどの血流障害
13. 便秘や下痢などの胃腸障害
14. 頭痛・片頭痛
15. やせ・肥満・むくみ・ダイエットや栄養障害
16. 貧血
17. その他( )
18. 該当するものはない

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q20 前問にて選択した健康課題や症状の具体的な内容を記載下さい。  
- SQ3

※従業員(女性)

(自由回答)

Q20

- その際に職場で必要と感じたもの、あれば助かったと思われるものはどんなものがありますか。

SQ4

※従業員(女性)

(〇はいくつでも)

1. 総務部や人事部などからのアドバイスやサポート
2. 上司や部署内でのコミュニケーション
3. 会社による業務分担や適切な人員配置などのサポート
4. 事前に予防や意識啓発を図るための健康教育
5. 受診や検診、治療のための休暇制度や柔軟な勤務形態など両立を支えるサポート
6. 産業医や婦人科医、カウンセラー、アドバイザーなど専門家への相談窓口
7. 病気や出産・育児などのライフイベント、年齢などにに関わりなく活用できるキャリアアップ制度
8. 健康保険組合などの保険者によるサポート
9. その他( )

Q 21- 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状(メンタル面の不調を含む)、妊娠や出産・

SQ1

妊活などにより、休職や退職を考えたことはありますか。

(〇は1つ)

※従業員(女性)

1. 考えたことがある
2. 考えたことはない



Q

21- 休職や退職を考える原因となったのは、具体的には、どのような健康課題や症状でしたか。

SQ2

※従業員(女性)

(〇はいくつでも)

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)
2. PMS(月経前症候群)(※1)
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)
4. 子宮内膜症や女性の良性腫瘍(卵巣のう腫、子宮筋腫など)
5. 甲状腺疾患(バセドウ病・橋本病など)や膠原病などの自己免疫疾患
6. 妊娠・出産に関する症状・疾病(つわり・流産・早産・死産・産後うつなど)
7. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)
8. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)
9. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)
10. 閉経後の女性ホルモン低下による症状・疾病(骨粗しょう症・関節痛・動脈硬化や糖尿病、メタボ、認知症の増加など)
11. 骨盤底の症状・疾病(頻尿・尿漏れ・骨盤臓器脱など)
12. 冷えやのぼせなどの血流障害
13. 便秘や下痢などの胃腸障害
14. 頭痛・片頭痛
15. やせ・肥満・むくみ・ダイエットや栄養障害
16. 貧血
17. その他( )
18. 該当するものはない

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q

21- 前問にて選択した健康課題や症状の具体的な内容を記載下さい。

SQ3

※従業員(女性)

(自由回答)

Q  
21- その際に職場で必要と感じたもの、あれば助かったと思われるものはどんなものがありますか。  
SQ4

※従業員(女性)

(〇はいくつでも)

1. 総務部や人事部などからのアドバイスやサポート
2. 上司や部署内でのコミュニケーション
3. 会社による業務分担や適切な人員配置などのサポート
4. 事前に予防や意識啓発を図るための健康教育
5. 受診や検診、治療のための休暇制度や柔軟な勤務形態など両立を支えるサポート
6. 産業医や婦人科医、カウンセラー、アドバイザーなど専門家への相談窓口
7. 病気や出産・育児などのライフイベント、年齢などにに関わりなく活用できるキャリアアップ制度
8. 健康保険組合などの保険者によるサポート
9. その他( )

Q22 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状(メンタル面の不調を含む)、妊娠や出産・妊活などの事情を持つ女性部下への対応として、管理者として以下の様に感じたことはありますか。  
SQ1

(〇は1つ)

※管理者

1. キャリアアップやスキル向上を目指すことは、難しいと感じた
2. 責任の大きい役職や管理職への昇進は、難しいと感じた
3. 休職や退職を促す必要があると感じた
4. 仕事との両立を応援したいと思ったが、十分にサポートができなかった
5. そういう経験はない

Q22  
- 前問の様に感じた背景や理由、具体的な内容についてお聞かせ下さい。

SQ2

※管理者

(自由回答)

Q22  
- 前問で女性部下が抱えていた(と思われる)健康課題や症状はどの様なものでしたか。(複数選択可)

SQ3

※管理者

(〇はいくつでも)

1. 月経関連の症状や疾病(月経不順・月経痛など)
2. PMS(月経前症候群)(※1)
3. 女性のがん・女性に多いがん(子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・乳がん)
4. 子宮内膜症や女性の良性腫瘍(卵巣のう腫、子宮筋腫など)
5. 甲状腺疾患(バセドウ病・橋本病など)や膠原病などの自己免疫疾患
6. 妊娠・出産に関する症状・疾病(つわり・流産・早産・死産・産後うつなど)
7. 不妊・妊活(男性・女性の双方による可能性がある)
8. メンタルヘルス(うつ病・パニック障害・摂食障害など)
9. 更年期障害(のぼせ・ほてり・多汗・月経異常・めまい・手足のしびれなど)
10. 閉経後の女性ホルモン低下による症状・疾病(骨粗しょう症・関節痛・動脈硬化や糖尿病、メタボ、認知症の増加など)
11. 骨盤底の症状・疾病(頻尿・尿漏れ・骨盤臓器脱など)
12. 冷えやのぼせなどの血流障害
13. 便秘や下痢などの胃腸障害
14. 頭痛・片頭痛
15. やせ・肥満・むくみ・ダイエットや栄養障害
16. 貧血
17. その他( )
18. 該当するものはない

※1 「PMSとは(Premenstrual Syndrome)の略で、日本語では「月経前症候群」と呼ばれている。生理が始まる前の3日～10日前に起こる、心と身体のさまざまな不調のこと。症状は、イライラする、怒りっぽくなる、うつ状態、腹痛、腰痛、頭痛、など様々な症状があらわれる。生理が始まると自然に消えたり、軽くなるのが特徴。

Q22

- 前問にて選択した健康課題や症状の具体的な内容を記載下さい。

SQ4

※管理者

(自由回答)

Q22

- その際に職場で必要と感じたもの、あれば助かったと思われるものはどんなものがありますか。

SQ5

※管理者

(〇はいくつでも)

1. 総務部や人事部などからのアドバイスやサポート
2. 産業医や婦人科医、カウンセラー、アドバイザーなど専門家への相談窓口
3. 受診や検診、治療のための休暇制度や柔軟な勤務形態など両立を支えるサポート
4. 業務分担や適切な人員配置などがしやすい環境づくり
5. 女性社員に多い健康課題やその対応に関する管理者研修
6. 健康保険組合などの保険者によるサポート
7. その他( )

Q23 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状、妊娠や出産・妊活などへの対応のために整えるべき職場のサポートや制度は、どのようなものだと思いますか。

※共通

(〇はいくつでも)

<健康支援関連>

1. 生理休暇
2. 妊婦検診など母性健康管理のためのサポート
3. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状に関する社員向けセミナー・啓発など
4. 女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状などに対する健康相談窓口の設置(産業医やカウンセラーなどの医療職スタッフ)
5. 子宮頸がん、子宮体がん、乳がんなどの検診受診の促進
6. 不妊治療・通院のための休暇(時間有給、短時間勤務など)・休職制度
7. 不妊治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)
8. 不妊治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)
9. がん治療・通院のための休暇・休職制度
10. がん治療・通院と仕事を両立するための柔軟な勤務形態の整備(時間有給、短時間勤務など)
11. がん復帰後のサポート(業務上の配慮や精神上的サポートなど)
12. 女性のがん治療を受ける従業員サポートに関する理解促進(人事部・管理職など)
13. 婦人科医など専門医と連携しアドバイスや医療機関紹介等のサポート
14. 検診や受診のための有給休暇制度
15. 健康保険組合などの保険者によるサポート
16. その他( )
17. 該当するものはない

Q24 前問のご経験の有無に関わらず、女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状(メンタル面の不調を含む)、妊娠や出産・妊活などにまつわる問題として職場で働いていく上で、今後不安だと思える健康課題や、周りの女性社員が困っている健康課題などお気づきの問題点があれば教えてください。また、この様な課題の解決策や上手くいった事例などもあれば教えて下さい。

(自由回答)

従業員(女性)

Q25 前問のご経験の有無に関わらず、女性特有の健康課題や女性に多く現れる症状(メンタル面の不調を含む)、妊娠や出産・妊活などにまつわる問題について職場で今後改善すべきだと思える点、疑問に思う点、対策に困る点などお気づきの問題点があれば教えてください。また、この様な課題の解決策や上手くいった事例などもあれば教えて下さい。

(自由回答)

従業員(男性)、管理者

Q26 女性が健康で働きやすい職場づくりについて、感想や疑問など一言お知らせください。

(自由回答)

共通

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。